

## 支部長就任ご挨拶



支部長 富田 晃三

残暑の候、支部会員先生方には益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。平素は支部運営にご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。令和5年6月9日に開催されました第43回定期総会後より支部長に就任しました富田晃三です。これからの2年間、宜しく願いいたします。

簡単に自己紹介をします。日本の歴史における一つの大きな転換点である大政奉還から100年後の1967年(昭和42年)に、ここ左京の地で生を受けました。そして幕末のような動乱はあるはずもなく、小・中・高・大とずっと京都で平和にすくすくと育ちました。その後、大阪にありました商社に就職し、退職後平成18年に税理士登録し、今に至っております。左京支部の一員となつてからは、研修委員・厚生委員として活動し、支部役員として税務支援対策委員長・税務支援対策担当副支部長をさせていただきました。また近畿税理士会では、紛議調停委員として1期2年、その後理事として中小企業対策部に所属しての1期2年を経験しました。前期は総務・経理・業務対策・研修・綱紀監察担当副支部長をし、この度支部長を仰せつかることとなりました。

支部長というお役目をさせていただくこととなったわけですが、支部長とはいったい何をするのでしょうか。今は総会後の書類作成に追われていますが、その答えをこれから2年間で見つけていきたいと思ひます。新たに選出された4人の副支部長、9人の委員長、そして2人の監事には、初めて支部役員になった方も何度日かの方もおられますが、それぞれが様々な経験を持った頼もしい先生方です。皆で協力して左京支部のために活動したいと思ひます。

役員の方、2年間よろしくお願ひします。

さて、コロナ禍が去りつつある中、かつての日常が戻って来ようとしています。ただ、コロナ禍を通じて世の中の価値観が変わってしまい、コロナ前にはもう戻れないし、また戻ってはいけないのではないかと感じています。このような状況の中、各委員会において支部会員先生方のために何ができるか、それぞれの委員長・委員の皆さんと話し合い、考えていきたいと思ひます。今回、無理を言って役員になっていただいた会員もおられます。役員となったからには支部のために働いてもらうのは当然ですが、少しでも負担を減らすため、役員会の在り方も考えていきたいと思ひます。

会員数もどんどん減っています。第41回定期総会議案書によると、令和3年3月31日現在の会員数は129人です。令和5年3月31日現在の会員数は124人、その後さらに2人減っています。少ない会員数での支部活動は難しい面もあるかと思ひますが、左京で税理士をやっているよかつたと思つてもらえるような支部にできればと思ひます。梶谷知代前支部長を始め、先日の総会にて退任された役員の方々、本当にお疲れ様でした。少しだけ休んで、また支部活動にご協力ください。会員先生方のご協力なくして支部の運営はできません。今後とも左京支部の活動にご理解とご協力を賜りますようよろしくお願ひします。